

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	<p>○主体的に学び、理解を深め、得た知識・技能を活用して自己実現に生かせるよう「分かる楽しい授業」の実践に取り組む。</p> <p>○課題解決に向けて、多面的なものの方・考え方ができる力を育むための実践をする。</p>	<p>新教育課程への移行があり、指導と評価の一体化を図るべく職員研修を積み重ね共通理解を図りました。観点別学習評価が3観点になったことから学習評価については外部講師に依頼し研修した。新教育課程では評価も変わり、授業も変わるという認識を職員が共通理解することができた。</p>	A
豊かな心	<p>○他者との関わりや豊かな体験を通して、自尊感情や自己肯定感を高め、他者に対する優しさを育む実践的な取組をする。</p> <p>○個々の違いを受け入れ、日常的に差別や偏見のない人権尊重の精神を育む生活を支援する。</p>	<p>コロナ禍の中で学校行事に制限もありながら体験的な取組を実施することができた。</p> <p>差別や偏見のないよう積極的な教育相談や日常的な観察に重点を置きながら生徒の生活を支援することができた。</p>	A
健やかな心と体	<p>○自分の体を知り、健康の増進について考える機会を増やすと共に、さらなる体力の向上を目指す実践をする。</p> <p>○生命の大切さを自覚し、性に関する正しい知識を身につけ、適切な意志決定や行動選択をとることができる力を育む実践的な取組をする。</p>	<p>スポーツテストを実施し、その結果を各自が分析し部活動などで活用することができた。</p> <p>「生命と性の健康教育」の講演を1・2年生で実施することができた。感想などから生徒にとって有意義な時間となっている</p>	A
児童生徒指導	<p>○教育相談活動の充実を図り、生徒個々の抱える背景や環境、生徒の心情等に寄り添ったきめ細やかな支援体制の確立に努める。</p> <p>○生徒の危機を見逃さず情報交換を密にし、きめ細やかな生徒理解と自立に向けた支援を心がける</p>	<p>教育相談アンケートを実施し相談活動を積極的に実施することができた。その中で生徒の心情に寄り添った支援をすることができている。常に情報交換をすることで早期対応をすることができた。</p>	A
特活指導	<p>○学級活動や生徒会活動等で、生徒の主体的な活動を充実させ、自治意識や自治能力を育む実践をする。</p> <p>○豊かな体験と学びあいの場としての学校行事等において、一人ひとりの生徒が活躍や貢献できる場があり、お互いに協働することにより所属感や連帯感を深めることができるようにする。</p>	<p>昨年度に比べて通常通りとはいかないまでも、学校行事が行われ、前向きな参加が見てとれた。学級として取り組む活動ができたことで、連帯感や充実感を共有することができた。次年度へ向けて、同じような状況でも主体的な取組ができるよう、努めていきたい。</p>	B
特別支援教育	<p>○特別支援を必要とする生徒の自立や進路選択に向けた教育の推進のために、組織的な対応と校内支援体制の整備、関係機関との連携を強化する。</p> <p>○生徒個々の特別支援教育推進上の課題をとらえ、個別の教育支援計画を作成し、活用する。</p>	<p>特別支援を必要とする生徒の自立や進路選択に向けた教育推進のために、校内全体で組織的な支援体制ができている。また、生徒個々人の特別支援教育推進上の課題を捉え、支援に努めている。</p>	B
キャリア教育	<p>○進路について関心を高め、自己の進路について考え実現しようとする態度を養う取組を実践する。</p> <p>○自己の生き方や将来の希望に基づき、主体的に適切な進路を選択し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができる取組を実践する。</p>	<p>進路については全学年で説明会を実施するなど3年間を見据えた指導を行うことができている。</p> <p>職場体験は、コロナ禍の中で3年間実施できなかったことから今後の活動としては持続可能な活動へと転換していくことが必要と考えている。</p>	B
情報教育	<p>○ICTの活用を通して、学習への興味・関心を高め、主体的・協働的な学びの実現を図る。</p> <p>○ITメディアなどの発する情報を主体的、能動的かつ批判的思考を用いて、正しく読み取り、また発信できるメディア情報リテラシーの力を養う。</p>	<p>各教科でICTの活用を推進しているが、クロームブックの活用をして学習への興味・関心を高めている。</p> <p>コロナ禍の中で家庭でのオンライン学習を実施したが課題もあり実施方法や形態を改善する必要がある。</p>	B
いじめへの対応	<p>○表面化しない心理や人間関係の把握に努め、変化を見逃さないよう早期発見・未然防止に努める</p> <p>○組織的な情報共有や、校内生徒指導・支援体制の確立、保護者との連携・協働のもと、事案に応じては関係機関との連携を図り、早期対応・解決に取り組む。</p>	<p>いじめ防止委員会は、毎朝の情報交換をすることで、いじめ認知、早期発見、未然防止に努めていました。情報の共有化を図り、組織的な連携、協働のもと対応できたと考えています。いくつかの事案に関しては、外部機関との連携も円滑に進めることができている</p>	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	<p>○組織の中で学校全体の運営に関わり、計画的に、全体を見通した学校運営ができる力を付け、その中核となる教職員を育成する。</p> <p>○メンターチームや学年会、校務分掌組織、研修会等において、経験豊かな教職員の知見に基づく指導・助言によって、経験の浅い教員の人材育成を図る。</p>	<p>組織の中での教員の育成に関しては、その成果は現れている。</p> <p>組織活動では、中堅教員の充実した働きや初任者、2年、3年目の教員が積極的な取組ができている。</p>	A
ブロック内評価後の気付き	<p>小中交流行事は、今年度もコロナ禍の中すべて中止となり、それぞれが来校して評価をする機会がありませんでした。しかしながら、教務や生徒指導専任を中心に小中の情報交換等を行うことができました。特に新指導要領に移行してからの情報交換ができていないことから次年度は、全員が集合できないときは必要に応じて部分開催をすることにしました。</p>		
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	
------------	--